

応用練習

PowerPoint は、口頭発表をベースとしたプレゼンテーションの支援ソフトとしてだけでなく、自動的に表示スライドを切り替える機能を持つため、展示型のプレゼンテーションにも利用できます。

ここでは、PowerPoint2007 以降で標準装備された機能「フォト アルバム」を使った例を紹介します。デジカメやスマートフォンで撮影した写真画像のファイルを一定の時間間隔で連続的に切り替える¹といった他愛のないものですが、無人でプレゼンテーションするための簡便な方法として覚えておいて損はありません。

手順 0. とりあえず素材をファイルとして集めておきます。通常の入手手段は、デジカメやスマートフォンで撮影した写真画像をファイルとして PC に取り込むことでしょう。インターネット上にある、あらゆる画像も対象になりますが、著作権・肖像権には十分注意して使う必要があります。

ここでは、そうした問題のないものを ssp_03materials.zip という 1 つのアーカイブファイル²にまとめたものを提供しているので、このファイルを指定の場所からダウンロードし、さらに、「解凍」(元の複数のファイルに分解すること)しておきます。情報実習室の PC では、ダウンロードしたアーカイブファイルをダブルクリックすると、解凍後のファイルを保存する場所(フォルダ)の名前を要求されるので、通常はそのまま(標準的には「デスクトップ」上) **OK** をクリックすれば自動的に解凍されます(図 1)。

手順 1. PowerPoint を起動して、新規作成の状態にします。そのまま、**挿入** リボンに切り替えたら、**フォト アルバム** を選択し、ファイルを選択するためのダイアログを表示させます(図 2)。

¹ Windows 自体にも、画像ファイルを連続的にフルスクリーンで投影する機能～スライドショー～があるので、単に一定間隔で表示させるだけならわざわざ PowerPoint を使う必要はない。時間間隔を微調整したり、変則的な間隔で投影させたり、BGM (Back Ground Music) に合わせて切り替えたい、といった要求がある場合の簡便な実現方法として理解しておこう。より高度な(たとえば、動画と写真画像や CG の組み合わせをする～スーパーインポーズ super-impose) 機能を必要とする場合は、そうした専用ソフトウェアを利用するべきではある。

² Archive とは貯蔵庫・保管庫、あるいはその中に保管されたモノを指す言葉。通常は、コンピュータ上の複数のデータファイルを 1 つにまとめ、記憶装置の容量やネットワークで伝送する際のデータ量を減らす意図で、さらにデータ圧縮が施されることが多い。ZIP は Windows でも標準的に利用される(圧縮された)アーカイブファイルの形式の 1 つである。圧縮の方式やアーカイブファイルの構造(まとめたファイルから混乱なく複数のファイルに復元できなければ意味がないので、そのような目的に合うデータ構造に関する約束事)は、さまざまなものがあり、LZH, GZIP, などもよく使用される。

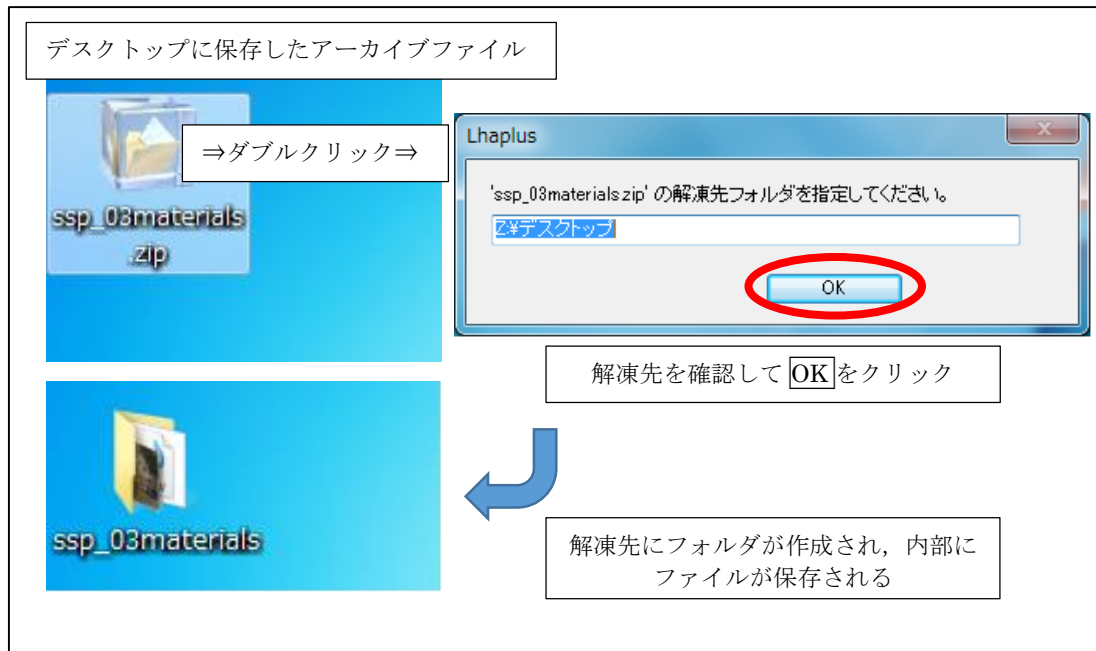


図 1 アーカイブファイルの解凍手順（情報実習室の PC での様子）

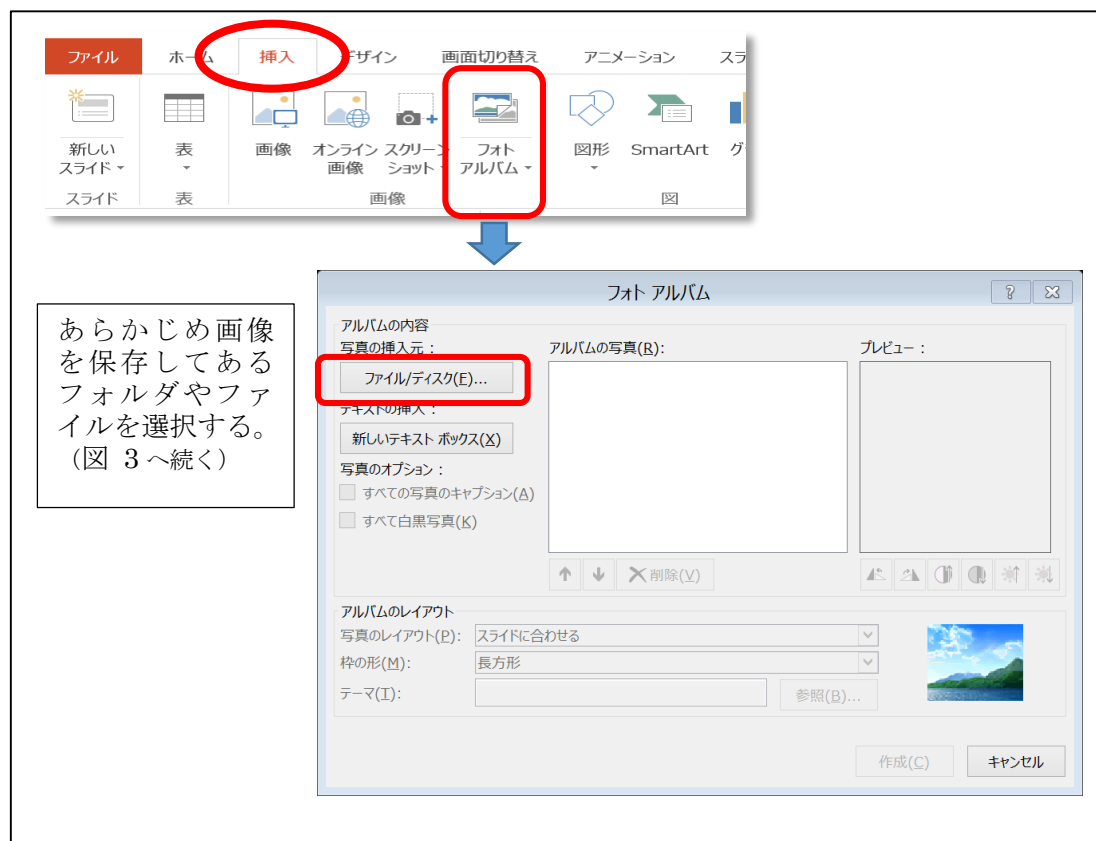


図 2 「フォト アルバム」の挿入ダイアログ

手順 3. 続いて、**ファイル/ディスク** ボタンをクリックして、手順 0 で用意したフォルダ内の画像を一括で取り込んでおく（図 3）。

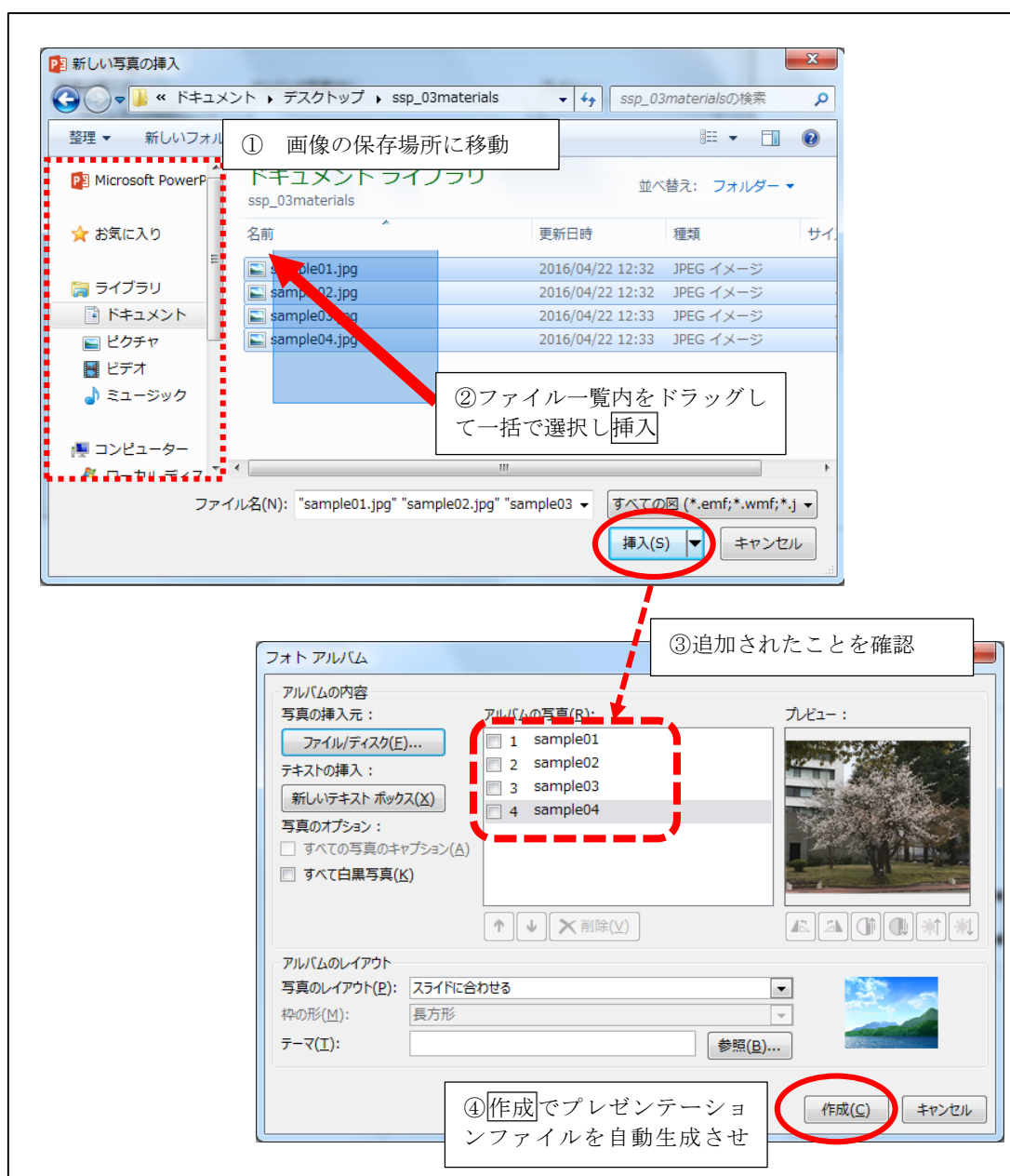


図 3 ファイル選択ダイアログでの一括選択と画像取り込みの確認

手順 4. 自動的に新しいプレゼンテーションが作成され、スライドごとに画像が配置されたものが現れる。このままでも、通常のスライドショーを使った（クリックで切り替えながらの）プレゼンテーションファイルとして使用できるが、「自動的に」「一定間隔」でスライドが切り替わるように細部の調整を行う。まず、**表示**リボンに切り替えておき**スライド一覧**に切り替えておく（図 4）。

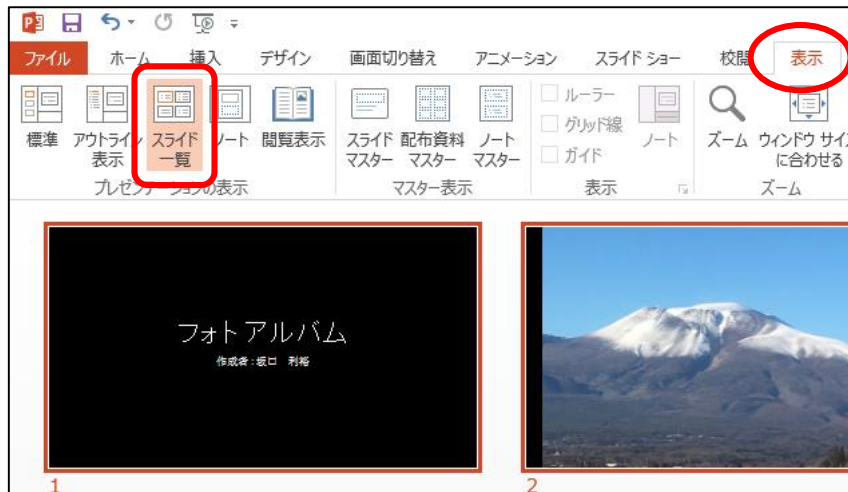


図 4 **スライド一覧**への切り替え (**表示**リボンを使用)

手順 5. 続いて、**画面切り替え**リボンに切り替え、さらに、キーボードの**Ctrl**キーを押しながら**A**を押して、すべてのスライドを同時に選択した状態にしておく (図 5)。

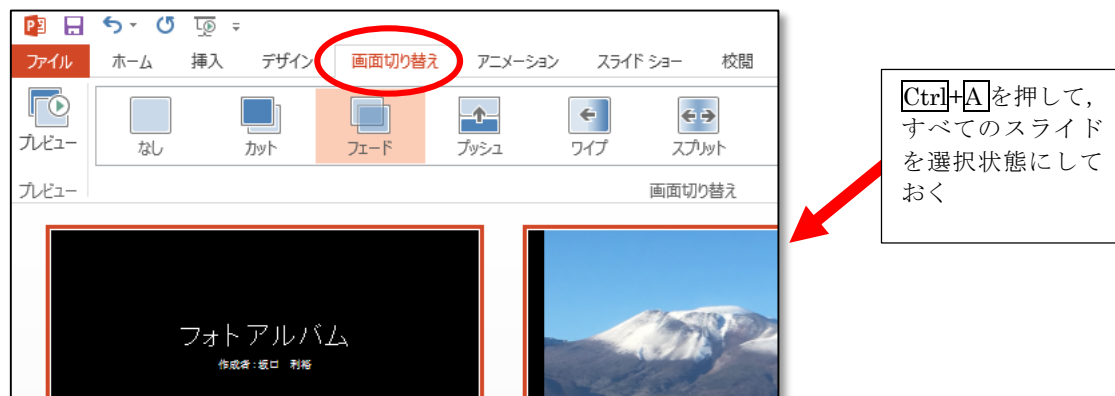


図 5 **画面切り替え**への切り替えと全スライドの選択

手順 6. 画面切り替えの効果を**なし**から適宜変更する。さらに、切り替えのタイミングをクリックによらず、時間で切り替わるように設定しておく。ここでは、30 秒間の音声ファイル (WAV ファイル) を BGM として使用する予定なので、5 秒間隔で切り替わるようにしておく (図 6)。

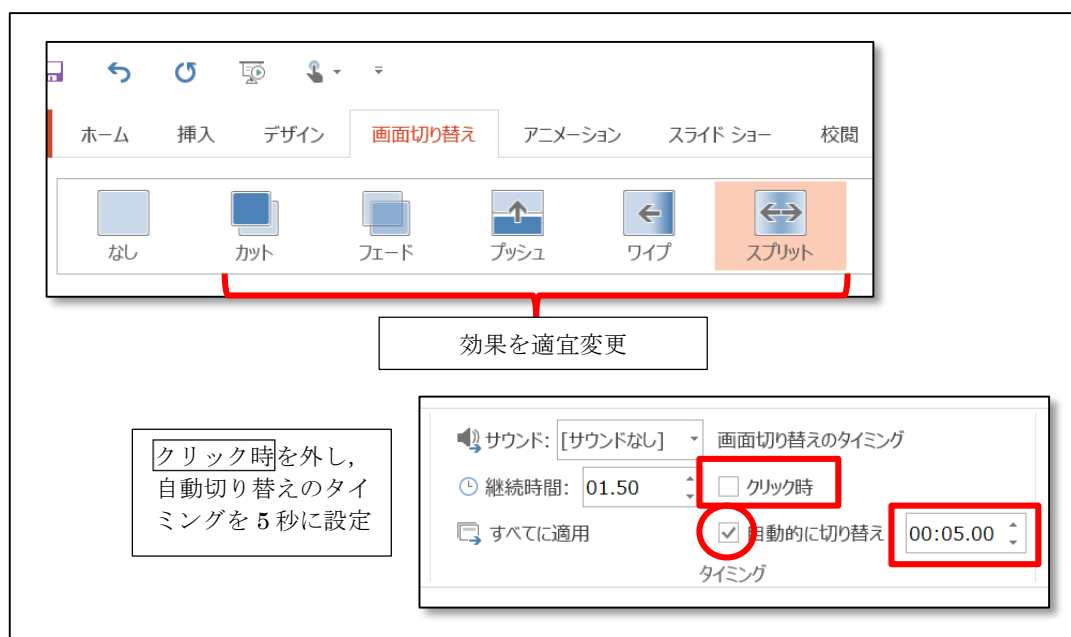


図 6 画面切り替え効果の変更と自動切り替えの時間設定

手順 7. ここまでの設定を終えたら、スライドショーで表示させてみて、タイミングや切り替えの効果を確認する。必要に応じて、手順 5.と 6.を繰り返してみるが、スライドごとに切り替えの効果を変えたり、時間間隔を変則的に変えたりしたいような場合には、**Ctrl+A**で全スライドを選択しないで、該当するスライドを（**スライド一覧**から）クリックしておいてから、**画面切り替え**リボンを使って個別に設定を変えるとよい。

手順 8. 最後に、タイトルスライドに、BGM として WAV ファイルを付け加える。タイトルスライドのみを (スライド一覧から) クリックしておき、画面切り替えリボンを使って、サウンドを加える (図 7)。

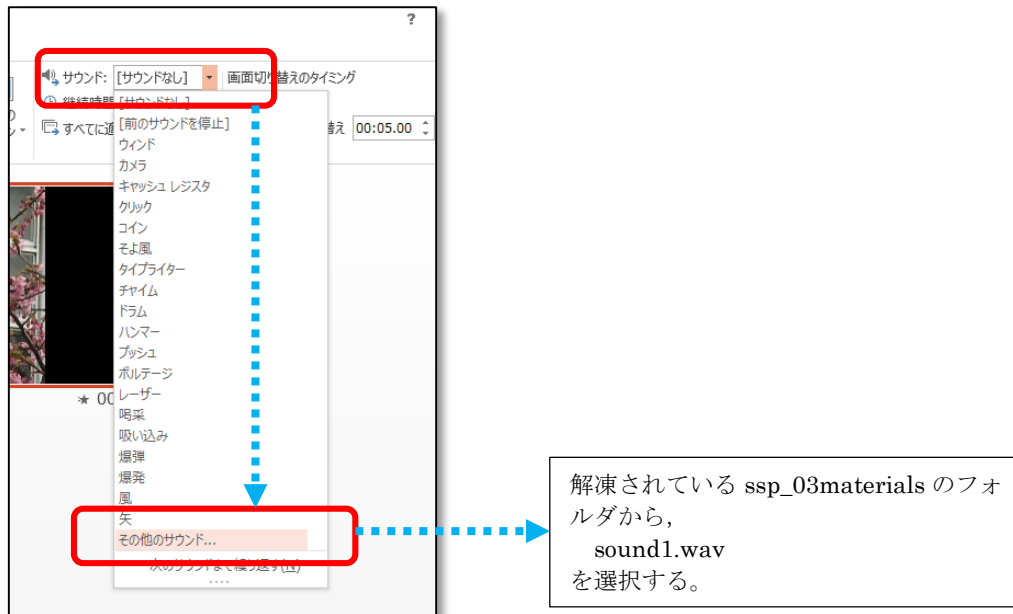


図 7 BGM の設定 (サウンドを追加)

手順 9. 全体を自動的に繰り返して再生させるためには、スライドショーリボンからスライドショーの設定を選択し、Esc キーが押されるまで繰り返すにチェックを入れておけばよい (図 8)。

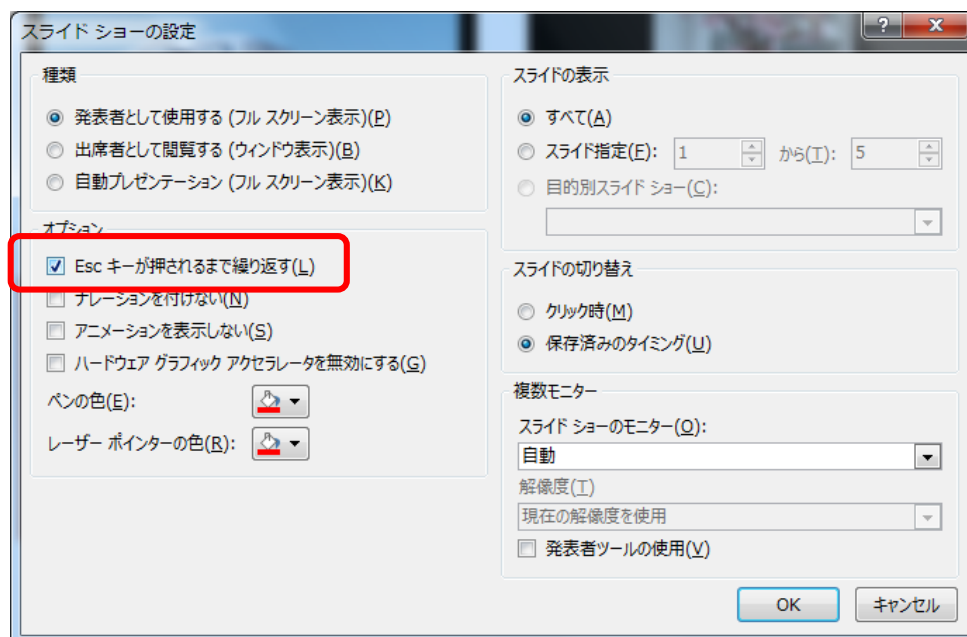


図 8 繰り返し再生の設定

手順 10. 仕上がったものは保存しておく。なお、フォトアルバム機能を使って作成したプレゼンテーションファイルも通常のもので変わらないので、通常のスライドを加えたり、タイトルスライドのテキスト情報は変更したりすることも可能である。